

しゅんぎく に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年8月1日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	適用病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	萎凋病	炭疽病	さび病	灰色かび病	うどんこ病	べと病	軟腐病	斑点細菌病	その他 病害虫								
バスアミド微粒剤	●								一年生雑草	20kg/10a	は種21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	ダゾメット	1回	8F	
ガスタード微粒剤	●								一年生雑草	20kg/10a	は種21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	ダゾメット	1回	8F	
ストロビーフロアブル		●								3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	クレソキシムメチル	3回以内	11	
アミスター20フロアブル		●								2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アゾキシストロビン	2回以内	11	
カリグリーン					●					800~1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	-	<野菜類(トマト、ミニトマトを除く)該当>	NC
			●	●						800倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布				
ハーモメイト水溶剤			●	●						800倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	<野菜類該当>	NC
					●					800~1000倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布				
Zボルドー						●	●	褐斑細菌病、黒腐病、黒斑細菌病		500倍 (100~300ℓ/10a)	-	-	散布	塩基性硫酸銅	-	<野菜類(キャベツを除く)該当>	M01
						●				500~1000倍 (100~300ℓ/10a)	-	-	散布				
サンクリスタル乳剤								アブラムシ類、コナジラミ類、ハクサイダニ		300倍 (150~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	脂肪酸グリセリド	-		
					●			ハダニ類		300~600倍 (150~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布				
スクレアフロアブル		●								2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マンデストロビン	3回以内	11	
イオウフロアブル					●					500~1000倍 (100~300ℓ/10a)	発病前~発病初期	-	散布	硫黄	-	<野菜類(すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちごを除く)該当>	I : UN F : M02

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

しゅんぎく に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年8月1日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	適用病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ネキリムシ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	マメハモグリバエ	アザミウマ類	コナジラミ類	ウシロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	その他 病害虫							
アルバリン粒剤/ スタークル粒剤			●							9kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	ジノテフラン	3回以内(但し、は種時及び定植時の土 壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	4A
										9kg/10a	定植時	1回	植溝土壌混和			
アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤		●								3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ジノテフラン	3回以内(但し、は種時及び定植時の土 壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	4A
カルホス微粒剤F	●									6kg/10a	定植時	1回	作条処理土壌混和	イソキサチオン	1回	1B
ベストガード粒剤		●		●		●				9kg/10a	定植時	1回	植溝処理土壌混和	ニテンピラム	2回以内(但し、定植時の土壌混和は1回 以内、株元処理は1回以内)	4A
		●		●		●				9kg/10a	収穫3日前まで	1回	生育期株元処理			
アディオン乳剤		●							ハクサイダニ	4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫21日前まで	2回 以内	散布	ペルメトリン	2回以内	3A
モスピラン水溶剤		●								8000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	アセタミプリド	2回以内	4A
エビセクト水和剤				●						2000倍	収穫14日前まで	2回 以内	散布	チオシクラム	2回以内	14
アフーム乳剤			●		●		●			2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	エマメクチン安息 香酸塩	2回以内	6
カスケード乳剤				●	●			●	ヨトウムシ	2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布 昆虫成長制御剤	フルフェノクスロン	2回以内	15
トリガード液剤			●							1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布 昆虫成長制御剤	シロマジン	2回以内	17

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> しゅんぎく

【令和6年8月1日現在】

薬剤名	適用病害虫								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ネキリムシ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	マメハモグリバエ	アザミウマ類	コナジラミ類	ウシロイデモジヨト	ハスモンヨトウ							
モスピラン顆粒水溶剤		●							8000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	アセタミプリド	2回以内	4A
オレート液剤		●							100倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期~収穫前日まで	-	散布	オレイン酸ナトリウム	- <野菜類(いちごを除く)該当>	(気門)
						●			100~300倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期~収穫前日まで	-	散布			
粘着くん液剤		●						うどんこ病、ハダニ類	100倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	デンプン	- <野菜類該当>	(気門) (粘着)
ディアナSC			●		●			オオタバコガ、ハクサイダニ	2500~5000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
プレオフロアブル									1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリダリル	2回以内	UN
コテツフロアブル									2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	クロルフェナピル	2回以内	13
ガードベイトA	●								3kg/10a	生育初期	2回 以内	株元散布	ペルメトリン	2回以内	3A
野菜ひろばN	●								3kg/10a	生育初期	2回 以内	株元散布	ペルメトリン	2回以内	3A
ネキリベイト	●								3g/m ²	生育初期	2回 以内	株元散布	ペルメトリン	2回以内	3A
ウララDF		●							4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フロニカミド	2回以内	29
アクタラ粒剤5		●	●						6kg/10a	は種時	1回	作条混和	チアメトキサム	4回以内(但し、は種時の作条混和は1回以内、散布は3回以内)	4A

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> しゅんぎく

【令和6年8月1日現在】

薬剤名	適用病害虫								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ネキリムシ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	マメハモグリバエ	アザミウマ類	コナジラミ類	ウシロイデモジヨト	ハスモンヨトウ							
アクタラ顆粒水溶剤		●	● #						2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	チアメトキサム	4回以内(但し、は種時の作条混和は1回 以内、散布は3回以内)	4A
ダントツ粒剤		●	●						6kg/10a	は種時	1回	播溝処理土壌混和	クロチアニジン	4回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、散布は3回以内)	4A
ダントツ水溶剤		●	●						2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	クロチアニジン	4回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、散布は3回以内)	4A
サフオイル乳剤		●						ハダニ類	300~500倍 (100~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	調合油	- <野菜類(いちご、トマト、ミトマを除く)該当>	NC
						●		チャノホコリダ ニ、うどんこ病	300倍 (100~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ムシラップ		●						ハダニ類、うどん こ病	500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	ソルビタン脂肪酸 エステル	- <野菜類該当>	-
サブリーナフロアブル								コナガ	1000~1500倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期(但し、収穫 前日まで)	-	散布	B T	- <野菜類(はくさい、えごま(葉)を除く)該当>	11A
								アオムシ、ヨトウ ムシ	1000倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期(但し、収穫 前日まで)	-	散布			
							●		500~750倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期(但し、収穫 前日まで)	-	散布			
								オオタバコガ	500倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期(但し、収穫 前日まで)	-	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

: 「ナモグリバエ」で登録